学びのひろば旭

vol.89

旭市教育委員会

庶務課（☎55-5721）　生涯学習課（☎55-5727）
学校教育課（☎55-5724）　体育振興課（☎64-1132）

一人一人を大切にした共生社会に向けて

どの子も「分かる！できる！」安心して通える学校生活のために

小中学校では「分からなかったことが分かる」「できなかったことができる」喜びを、子どもたち一人一人が味わい、自分らしさを生かせる学校生活を送るために、それぞれの子どもに合わせた特別支援教育を進めています。

特別支援教育として、特別支援学級やことばの教室、通級指導教室を開設しています。校内の特別支援教育コーディネーターを中心に、保護者や医療・福祉関係機関などと連携しながら、全ての子どもが、友達と共に生き生きと学び合えるように努めています。

家庭と学校との架け橋となりスムーズな就学を目指します

教育委員会では、小学校に入学する子どもがいる家庭に、就学時健診の内容や就学相談の方法、小学校生活などを記した就学情報パンフレット、学校生活紹介リーフレットを作成し、配布しています。

また、旭市就学支援ステップシートでは、子どもの様子や保護者の思いを、保育所・幼稚園などから小中学校、高校へと引き継ぎ、共有しながら成長の手助けをする取り組みも行っています。

ライフステージに応じた支援とネットワーク

乳幼児期

支援の例
保育所や発達支援センターなどと連携し、個別の教育支援計画を作成。将来にわたってその子らしさを発揮することができるようにした。

就学前相談支援ネットワーク
- ○保育所・幼稚園など
- ○発達支援センター、福祉センター
- ○児童相談所　など

学齢期

支援の例
関係者と会議を開き、支援についてさまざまな検討を実施。写真や絵を書いたカード、動画などを利用した活動により、誰もが多くの友達と一緒に学べるように環境を整えた。

教育支援ネットワーク
- ○小中学校、高校、特別支援学校
- ○病院、福祉施設、親の会
- ○中核地域生活支援センター　など

青年期～成人

支援の例
それぞれの個性を生かせる就労に向け、実習先の検討を支援。実習先での業務説明なども、丁寧に行ってもらえるよう働きかけた。就労後はジョブコーチ※が職場の人たちとのパイプ役となり、環境に溶け込めるようにサポートした。

就労支援ネットワーク
- ○事業所、福祉施設
- ○キャリアセンター、高等技術専門校
- ○ハローワーク　など

※ジョブコーチ…職場適応に向けたきめ細かな人的支援を提供する専門職。

旭市就学支援ステップシートや個別の教育支援計画による継続支援

あさひ輝いた人々 第30回

旭市農協組合長、県信連会長を務めた名望家

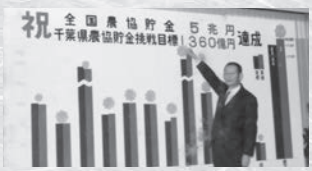
金谷（かなや） 隆（たかし）（1901～1998年）

金谷隆は農業の発展に尽くし、地域の名士として活躍した人物です。

明治34(1901)年、共和村の金谷家の長男として生まれ、大正７(1918)年に成東中を卒業し、家業の農家を継ぎました。中学時代には、後のキッコーマン株式会社初代社長である茂木啓三郎氏と一緒に通学し、その友情は晩年まで続きました。父は、共和村長や共和村産業組合組合長などを務めた人物で、その父を支えながら家をもり立てて働きました。

昭和10(1935)年、34歳のときに県内で初となる種豚の組合「干潟種豚組合」を設立し、初代の組合長に就任しました。血統書の導入や共進会※1の開催など、国内でもほとんど例のなかったことを独自の方法で始めました。その画期的な取り組みは、その後の千葉の養豚モデルとなり、昭和16(1941)年には畜産功労で知事表彰を受けました。

昭和34(1959)年に旭市議会議員に当選しましたが、多忙により１期で退任し、昭和39(1964)年には、63歳で旭市農業協同組合組合長に就任しました。この年は献穀献納式※2のために、夫妻で天皇陛下に米を奉納するという大役を務めました。翌年には千葉県信用農業協同組合連合会の理事に就任し、昭和44(1969)年に会長となり、持ち前の力を大いに発揮しました。周囲からの人望が厚く、数多くの要職をこなしてきた隆ですが、自らは役職などを好まない性格でした。しかし、推されて引き受けた以上は何事も全力で臨み、立派にその役をこなしたので、誰からも頼りにされました。



千葉県信用農業協同組合連合会の事務所にて

※１産業の振興を図るため、産品や製品を集めて展覧し、その優劣を品評する会。
※２宮中祭祀の一つである新嘗祭（にいなめさい）にお供えする米と粟を、天皇陛下に献納する式典。